



## ドリルねじシリーズ part.1

ドリルネジはドリルとタッピンねじの2つの機能を持ったネジ。  
 タッピンねじが下穴を必要とするのに対し、ドリルネジは自分で下穴をあけます。  
 つまり**複合ネジ**と言えます。(初めて見たとき凄いと思いましたっけ。)  
 JISにも記載され、正式には「ドリリングタッピンねじ」と言います。  
 このドリルネジ、JISでは「切り刃先」と「とがり先」の2つに分けています。

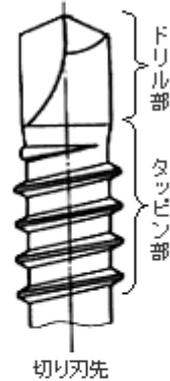
「切り刃先」は特徴があるのですぐ解りますが、「とがり先」はドリルネジと認識されていない方が意外と多いです。(弊社内にも多数おります。)  
 とがり先は下穴をあけると言うより、突き破ると言う表現の方が正しいです。  
 ですから、あまり厚い鋼板には使用できません。メーカーは1.2mm厚(メーカーによっては1.6mm)までと言っていますが、1mmまでを目安に考えておいた方が良いでしょう。  
 実際はほとんどが1mm以下の薄鋼板に使用されます。代表的なネジは、軽天ラップビス。  
 石膏ボードを貼るときに使用するネジです。

ところで、とがり先のドリルネジはタッピンねじの1種(Aタイプ)と混同しがちです。

見分けるポイントは

- (1) 図のyの部分(先端のテーパ部分)の半分以上にネジ山があること。
- (2) 先端角度が $35^\circ \pm 10^\circ$ 。(タッピンねじの先端角度 $45^\circ \pm 5^\circ$ と重なる部分もありますが、概して先端が鋭くとがっている印象になります。)
- (3) 薄鋼板に使うので、二条ネジを採用しているケースが多いです。

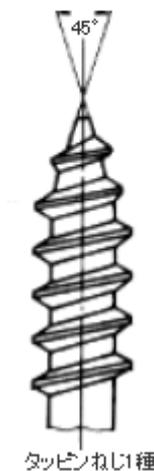
機能的には、鋭い先端で突き破り、すぐにネジ山の始まりがあるのでその部分で押し広げる。そしてネジ山を立てる。二条ネジの場合、2ヶ所でネジ山が鋼板に掛かかるので、薄鋼板に向いています。



切り刃先



とがり先



タッピンねじ1種

当社の「切り刃先」のドリルネジは  
 “ピアス” “テクス” “ライブ”  
 “フラッシュポイント” “FRX”  
 えらく増えたものです。

